



Expressway インターフェイス

このセクションでは、Expressway Web ユーザインターフェイスと CLI と API についてまとめています。管理トラフィックに LAN3 を使用するオプションの専用管理インターフェイス (DMI) については、「[専用管理インターフェイス \(DMI\) の設定](#)」を参照してください。

- [SMC Web インターフェイスについて \(1 ページ\)](#)
- [Web ページの機能とレイアウト \(3 ページ\)](#)
- [コマンドラインインターフェイスについて \(5 ページ\)](#)
- [API について \(6 ページ\)](#)
- [ハードウェアプラットフォームでサポートされるソフトウェアバージョン \(7 ページ\)](#)

SMC Web インターフェイスについて


このセクションでは、Expressway Web ユーザインターフェイスと CLI と API についてまとめています。

通常、システム設定は Web インターフェイスを通じて実行します。Web インターフェイスを使用するには、次の手順を実行します。

1. ブラウザウィンドウを開き、アドレスバーにシステムの IP アドレスまたは FQDN を入力します。
2. 有効な管理者のユーザ名とパスワードを入力し、**[ログイン (Login)]** をクリックします (管理者アカウントの設定方法について詳しくは、ユーザアカウントの項を参照してください)。**[Overview]** ページが表示されます。

Expressway のセキュリティ証明書に関する警告メッセージが表示された場合は、システムの保護の準備が整うまで、これを無視できます。

フィールド マーカ

- 赤のアスタリスク  が付いたフィールドは必須フィールドです
- オレンジ色のダガー†が付いたフィールドは、クラスタ内の各ピアで設定する必要があるフィールドです。

サポートされるブラウザ

Expressway の Web インターフェイスは、Internet Explorer 8 および 9（非互換モード）、Internet Explorer 10 および 11、Firefox、Chrome に対応するように設計され、テストされています。他のブラウザを UI へのアクセスに使用することは、正式にはサポートされていません。

Expressway の Web インターフェイスを使用するには、JavaScript と Cookie を有効にする必要があります。

HTTP メソッド (HTTP Methods)

Expressway の Web サーバでは、次の HTTP メソッドが許可されています。

方法	Web UI での使用	API での使用	用途
GET	はい	はい	指定したリソースからデータを取得します。たとえば、Expressway の Web インターフェイスの特定のページを返します。
POST	はい	はい	Web リソースにデータを適用します。たとえば、管理者が Expressway の Web インターフェイスを使用して、設定の変更を保存する場合などです。
オプション	いいえ	はい	指定した URL に対し、サーバでサポートされている HTTP メソッドを返します。たとえば、Expressway は OPTIONS を使用して HTTP/1.1 コンプライアンス用にプロキシサーバをテストできます。
PUT	いいえ	はい	指定した URI に保存するリソースを送信します。REST API コマンドはこのメソッドを使用して、Expressway 設定を変更します。
DELETE	いいえ	はい	指定したリソースを削除します。たとえば、REST API はレコードの削除に DELETE を使用します。

API へのユーザアクセスを無効にする方法

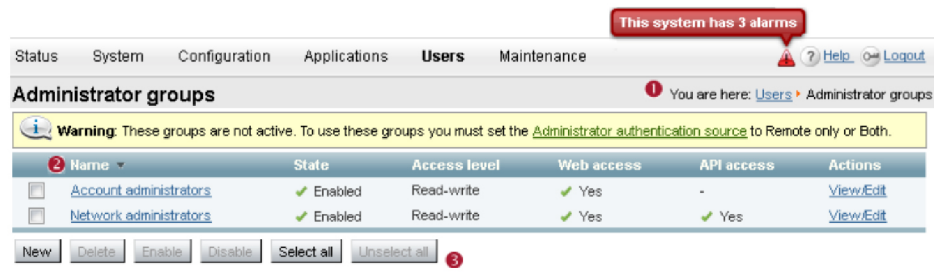
管理者はデフォルトで API にアクセスできます。これは、次の 2 つの方法で無効化できます。

- Expressway が高度なアカウントセキュリティモードで動作している場合、API アクセスはすべてのユーザで自動的に無効になります。
- 個別の管理者の API アクセスは、ユーザ設定オプションを使用して無効にできます。

Web ページの機能とレイアウト

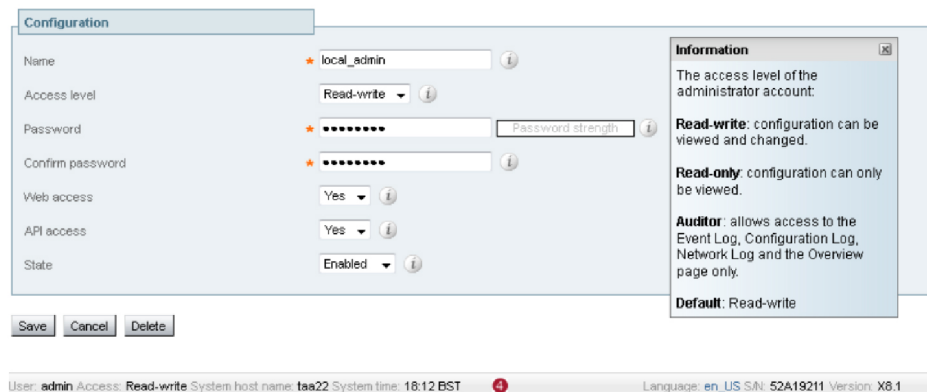
このセクションでは、Expressway Web インターフェイスページで使用可能な機能について説明します。

図 1: リストページの例





453637









図 2: 設定ページの例



453636

次の表で、ここに示した Web ページの例に表示されている要素について説明します。

ページの要素		説明
ページの名前と場所		各ページには、ページ名とそのページへのメニューパスが表示されます。メニューパスの各部分にはリンクが貼られています。上位のメニュー項目をクリックすると、該当のページが表示されます。
システム アラーム		このアイコンは、システムアラームがあるすべてのページの上部右隅に表示されます。このアイコンをクリックすると、アラームとその推奨される解決策に関する情報が表示される [アラーム (Alarms)] ページに移動します。

ページの要素		説明
ヘルプ		このアイコンは、各ページの右上に表示されます。このアイコンをクリックすると、表示されているページに固有のヘルプが示された新しいブラウザ ウィンドウが開きます。このウィンドウには、そのページの目的の概要が表示され、そのページでの設定に関する説明が示されます。
ログアウト		このアイコンは、各ページの右上に表示されます。このアイコンをクリックすると、管理者セッションが終了します。
フィールドレベルの情報		情報アイコンをクリックするか、またはフィールドの内部をクリックすると、情報ボックスが設定ページに表示されます。このボックスには、該当する場合には有効な範囲やデフォルト値などを含む、特定のフィールドに関する情報が表示されます。情報ボックスを閉じるには、右上の [X] をクリックします。
情報バー		Expressway では、設定を保存したときや、さらにアクションが必要な場合などの特定の状況でフィードバックを提供します。このフィードバックは、ページ上部に黄色の情報バー内に表示されます。
カラムのソート		カラム見出しをクリックすると情報が昇順または降順で並べ替えられます。
[すべてを選択 (Select All)] と [選択をすべて解除 (Unselect All)]		リスト内のすべての項目を選択または選択解除するには、これらのボタンを使用します。
必須フィールド		完了する必要がある入力フィールドを示します。
ピア固有の設定項目		Expressway がクラスタの一部である場合は、設定のほとんどの項目がクラスタ内のすべてのピアに適用されます。ただし、†で示された項目は、クラスタ ピアごとに個別に指定する必要があります。

ページの要素		説明
システム情報	4	現在ログインしているユーザの名前とそれらのユーザのアクセス権限、システム名（システム名が設定されていない場合は LAN 1 IPv4 アドレス）、ローカルシステム時刻、現在選択されている言語、シリアル番号と Expressway ソフトウェア バージョンがページの下部に表示されます。



(注) 管理者アカウントに読み取り専用特権が指定されている場合は、設定値を変更できません。

Web ユーザインターフェイスのアプリケーションメニューがない

Expressway がインストールされている場合、Web ユーザインターフェイスに表示されるメニューは、サービスセットアップウィザードで選択したサービスの選択に合わせて調整されます。場合によっては、選択したサービスの組み合わせによっては、[アプリケーション (Applications)] メニューがインターフェイスに表示されない場合があります。このような場合にメニューを復元する場合は、次の手順を実行します。

1. [ステータス (Status)] > [概要 (Overview)] に移動し、[サービスセットアップの実行 (Run service setup)] をクリックして、サービスセットアップオプションに戻ります。
2. サービスを選択せずに続行オプションにチェックを入れ、[続行 (Continue)] をクリックします。

コマンドラインインターフェイスについて

コマンドラインインターフェイス (CLI) は、SSH 経由でおよびアプライアンスベースのシステムのシリアルポート経由でデフォルトで使用できます。これらの設定は、[システム管理 (System administration)] ページで制御します。

CLI を使用するには

1. SSH セッションを開始します。
2. Expressway の IP アドレスまたは FQDN を入力します。
3. 管理者のユーザ名とパスワードを使用してログインします。
プライベートキーを使用して認証する場合は、「[Expressway への SSH アクセスの有効化](#)」を参照してください。
4. これで、適切なコマンドを入力して CLI を使用できるようになりました。

コマンドタイプ

コマンドは次のグループに分類されます。

- **xStatus** はシステムの現在のステータスに関する情報を返します。現在のコール数や登録数などの情報は、このコマンドグループを使用して入手できます。さらに、「[コマンドリファレンス : xStatus](#)」で **xStatus** コマンドの詳細なリストを参照してください。
- **xConfiguration** は、これらのコマンドを使用すると、1つのデータ項目（IPアドレスやゾーンなど）を追加したり編集したりできます。さらに、「[コマンドリファレンス : xConfiguration](#)」で **xConfiguration** コマンドの詳細なリストを参照してください。
- **xCommand** は、これらのコマンドを使用すると、項目を追加および設定したり、情報を取得したりできます。さらに、「[コマンドリファレンス : xCommand](#)」で **xCommand** コマンドの詳細なリストを参照してください。
- **xHistory** は、コールと登録に関する履歴情報を提供します。
- **xFeedback** は、コールや登録など、イベントが発生した場合に関する情報を提供します。

便利な制御

- CLI に **xConfiguration** パスを入力すると、その要素（および該当する場合はサブ要素）に現在設定されている値のリストが返されます。
- CLI に **xConfiguration** のパスを入れて、その後には ? を入力すると、その要素とサブ要素の使用方法に関する情報が返されます。
- CLI に **xCommand** コマンドを ? 付きで、または ? を付けずに入力すると、その要素の使用方法に関する情報が返されます。

API について

Expressway が詳細アカウントセキュリティモードになっているか、管理者のユーザ設定オプションで個別のアクセスが無効になっている場合を限り、管理者はデフォルトで Expressway REST API にアクセスできます。

API は、RAML を使用して文書化されています。Expressway 設定ガイドページには *REST API* サマリーガイドが用意されており、基本 URL と RAML 定義へのアクセス方法と、要求と応答の例を挙げています。

ハードウェアプラットフォームでサポートされるソフトウェア バージョン

表 1: このリリースでサポートされている **Expressway** プラットフォーム

プラットフォーム名	シリアル番号	ソフトウェア バージョンのサポート範囲
小規模 VM (OVA)	(自動生成)	X8.1 以降
中規模 VM (OVA)	(自動生成)	X8.1 以降
大規模 VM (OVA)	(自動生成)	X8.1 以降
CE1200 Hardware Revision 2 (UCS C220 M5L にプレイン ストール)	52E1####	X12.5.5 以降。
CE1200 Hardware Revision 1 (UCS C220 M5L にプレイン ストール)	52E0####	X8.11.1 以降。
CE1100 (UCS C220 M4L にプ レインストールされた Expressway)	52D#####	メンテナンスとバグ修正のみ を目的とする X12.6.x バージョ ンでの限定的なサポートを除 き、(X12.5.x 以降) サポート されていません。
CE1000 (UCS C220 M3L にプ レインストールされた Expressway)	52B#####	サポート対象外 (X8.10. x 以 降)
CE500 (UCS C220 M3L にプレ インストールされた Expressway)	52C#####	サポート対象外 (X8.10. x 以 降)

■ ハードウェア プラットフォームでサポートされるソフトウェア バージョン